

# 観光教育 出前授業 (玉川大学寺本教授)

9

2018年(平成30年) 9月20日(木曜日)

八

## 観光プラン立案に挑戦

### 寺本教授が特別授業

八 商 工

県内で「観光教育」の必要性を提唱している玉川大学の寺本潔教授による高校生向け特別授業が18日午前、八重山商工高校(新城英人校長)で行われ、観光コース2年生18人が客層に応じた観光プランの立案に挑戦した。

県内の主要産業である観光に特化した授業導入により、観光人材の育成を提言する寺本教授は、小中高で観光のモデル授業へつながる取り組みの一環として市内の高校で初めて出前授業を行った。

米国のハワイ州をライバルに据える沖縄観光を踏まえ、寺本教授は生徒たちに両都市の魅力を比較検討させ、客層に応じた観光客

の取り込みや今後の改善点をグループごとに発表した。

このうち、生徒からは沖縄特有の離島観光の魅力、「日本人観光客には言語が通じる国内のハワイとして、安心感があるので人気」、「海外旅行より手頃」などを評価。一方、懸念材料には「多言語に対応できていない」、「台風などの自然災害や冬場と雨天時の観光メニューが少ない」、「米軍を抱え、相次ぐ事故による観光への影響」などの指摘があった。

寺本教授は「沖縄独自の魅力を絞り込み、客層に応じた観光客を取り込むことを考えることが大事。ハワイのまねだけでは超えられ

ない」と提言。

終了後、寺本教授は八重

山での観光教育の進め方について、「観光の学びはさまざまな分野に共通するところが多く、思考力を高められる。小中高から観光を学ぶことが人材を育て、将来的な雇用にもつながる。今後も出前授業を市内で拡大させたい」と話した。



ハワイと沖縄の観光を比較しながらグループの意見を発表する八商工観光コースの生徒と玉川大学の寺本潔教授(左)＝18日午前、八重山商工

八重山毎日新聞

平成30年9月20日(木)9面より